

第3回学習院大学ブランディング・シンポジウム
第22回生命科学シンポジウム

公開講演
聴講無料・申込不要
一般参加歓迎

『超高齢社会を考えるI』

文理連携型〈生命社会学〉という新たな切口

平成29年**11月25日** (土)

午後2時～午後5時30分

学習院大学

西5号館 201号室
JR目白駅から徒歩5分



国立社会保障・人口問題研究所所長
社会保障審議会医療保険部会部会長
社会保障審議会介護保険部会部会長

遠藤 久夫

「超高齢社会における医療・介護の現状と課題」

学習院大学スポーツ・健康科学センター教授

高丸 功

「健康寿命を伸ばすためのスポーツ界の取り組み」



学習院大学・理学部教授

阿形 清和

「フロント生命科学が提示する超高齢社会の諸課題」



主催：学習院大学国際研究教育機構・理学部生命科学科

後援：豊島区

問い合わせ先：国際研究教育機構（担当：野田）

georeoff@gakushuin.ac.jp 03-5992-9208 9:00-16:30 (昼休み11:30-12:30除く)

「超高齢社会を考えるI」

文理連携型〈生命社会学〉という新たな切口

平成29年11月25日 (土)

午後2時～午後5時30分

学習院大学

西5号館201号室 JR目白駅から徒歩5分



午後1:30 受付開始

午後2:00-2:10

荒川 一郎 (国際研究教育機構長、学習院大学理学部教授)
開会、主催者挨拶

午後2:10-3:10

遠藤 久夫 (国立社会保障・人口問題研究所所長
社会保障審議会医療保険部会部会長、社会保障審議会介護保険部会部会長)



「超高齢社会における医療・介護の現状と課題」

日本人の平均寿命は男女ともに世界第2位と長寿大国であり、今後も伸びると予想されている。その結果、少子化の影響もあり75歳以上人口の割合は1990年の5%から2025年には18%へと大幅に上昇する。高齢者の増加は医療費や介護費を増加させ、一方で、人的、経済的な負担を担う若者は減少していく。ここでは医療保険制度、介護保険制度の持続可能性について、現状の課題と現在進められている政策について整理・議論する。また、健康寿命の延伸のための予防政策や、有効性は高いが非常に高価な医薬品の登場などの最近のトピックスにも触れたい。

午後3:20-3:50

高丸 功 (学習院大学スポーツ・健康科学センター教授)

「健康寿命を伸ばすためのスポーツ界の取り組み」

健康寿命とは、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義される。わが国の健康寿命と平均寿命との差は男性で約9年、女性で約12年とされ、世界的にも格差が大きい。このことは、高齢者が寝たきり等のために、介護を必要とする期間が長いことを意味している。充実して自立した生活を送るための健康づくりを目指す上で、スポーツや体育が果たす役割について提案してみたい。



午後3:50-4:20

阿形 清和 (学習院大学理学部教授)

「フロント生命科学が提示する高齢社会の諸課題」

健康寿命の延伸に向け生命科学は新たな試みに挑戦している。iPS細胞を用いた再生医療には多くの期待が寄せられ、今では細胞移植の域を越え、試験管の中で血管を含むミニ臓器を作り、それを移植する試みが進みつつある。また、ブタにヒトの臓器を作らせて臓器移植に使えるようにする-昔では考えられなかった治療法も考案されている。そこには、なぜ寿命があるのか、ヒトと他の生物との違いは何なのか、人間の尊厳とは何か-哲学や倫理観など、人間としての根源的な問いが包含されている。ここでは文理連携によって議論されるべき論点を整理してみたい。



午後4:30-5:30

パネルディスカッション

「新たな文理連携の取り組み-『生命社会学』への挑戦」



司会：岡本 治正
学習院大学理学部長



岡 孝
学習院大学法学部長



山本 政人
学習院大学文学部教授
学習院大学計算機センター所長



安達 卓
学習院大学理学部教授 (主任)

主催：学習院大学国際研究教育機構・理学部生命科学科

後援：豊島区

問い合わせ先：国際研究教育機構 (担当：野田) georeoff@gakushuin.ac.jp 03-5992-9208 9:00-16:30 (昼休み11:30-12:30除く)